

土居光
翠編
近奇女大
學子



柳田文庫
文庫11
A1463



男女同權
一說

文庫

A1463

土居光華編

近世女大學

淡血樓藏版

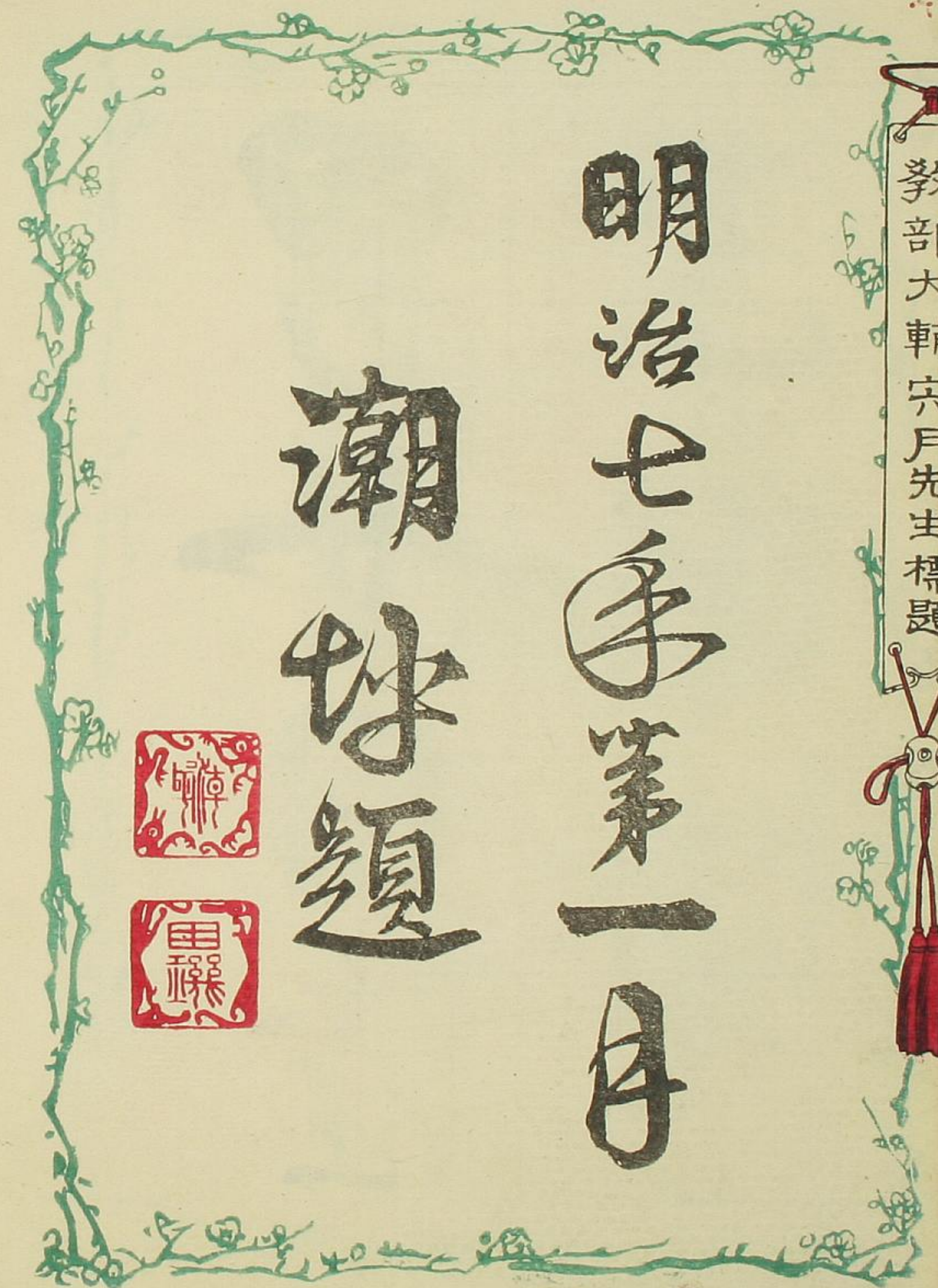
男女同權 女界一鏡



勢部大輔六戸先生標題

明治七年第一月

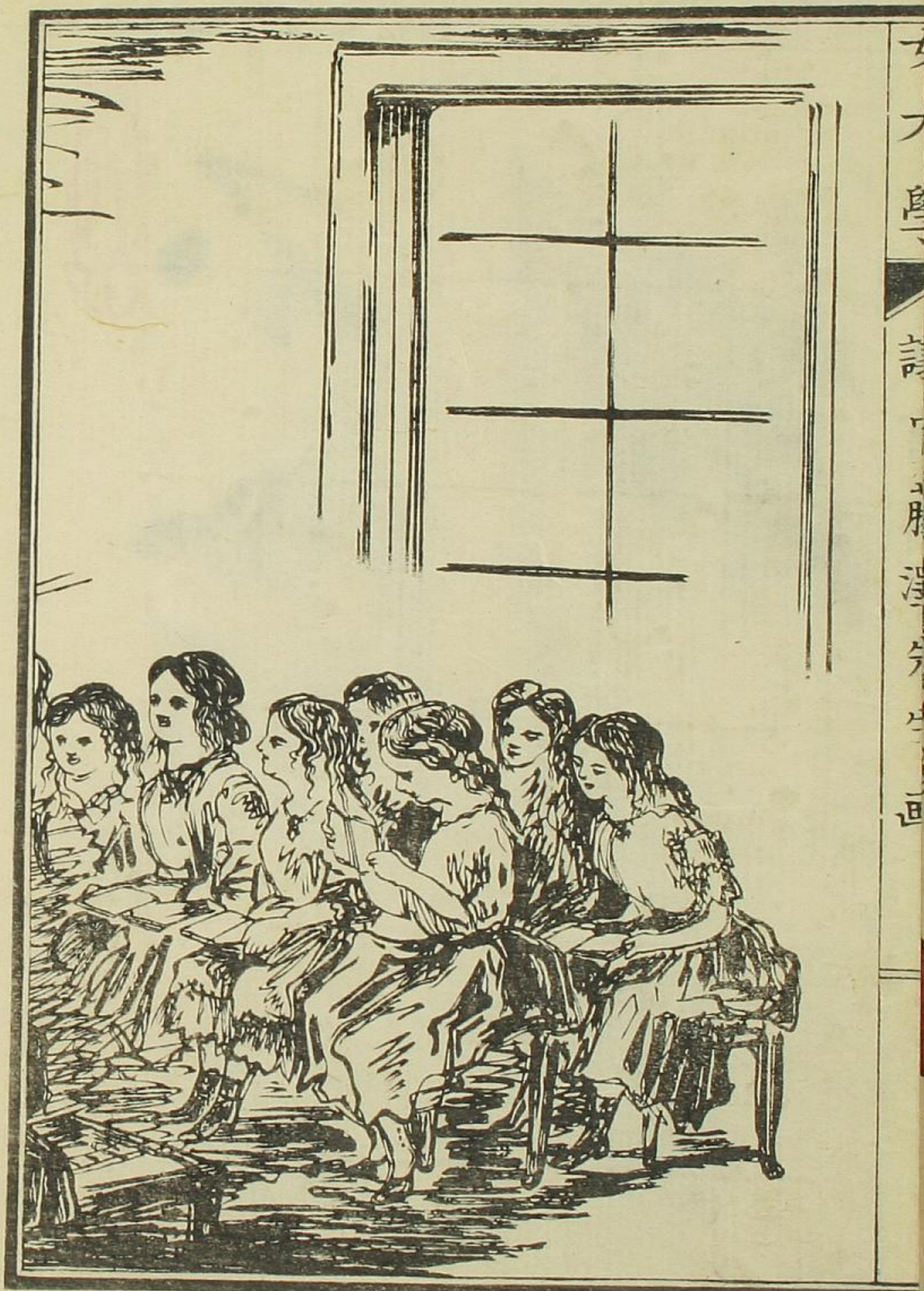
潮坪題



不世為不
刺白



大學
義宮上卷畢
七
二



女子學
講義
第一卷
第三回

女大
學
河
錦
狂
齋
生
畫



河
錦
狂
齋
生
畫

女大
學
河
錦
狂
齋
生
畫



皇自之
紅之
年
海
紅



柳田泉文庫

皇のわし
紅のわし
年
海
紅

古今圖書集成
身居所法子書



女子學
加藤千代子
六

近世きんせい女大おんなおほがく學がく

土居光華 編

第一だいいち章しやう

人ひとの男女おんなとをとこの差別さべつなく皆みな不ふ

女子學

西さい 羈か 五ご 制せい 自じ 主しゅ 自じ 由ゆう 三さん 法ぽう 權けん 有あ
これす おほいこれひさうさふん むしうがら

至た 他た 人じん の 抑お 制せい を 受う け ざる 共とも

然しか り 然しか り 子こ 女にょ 子し の 天てん 性せい 柔じゆう 順じゆん

男おん 子し 法ぽう 有あ 護ご 子し 非あ り ぬ 其その 身み

身み 財さい 貨か を 全ま ち 吾われ の 田でん の

樂たの しき 窮きゆう 乏ぼく 乏ぼく 子し 能た け ず 故ゆ

子こ 女にょ 子し 法ぽう 有あ 勞らう 方ほう 報ほう ひ 其その 義ぎ 平へい

謝あ り 名な 為な る 多た 少せう 法ぽう 權けん 利り を

六六 六六

剽劫ひやくしは是こゝを男子おとこ子こ借か兵へい

をさるる處ところら寸すん是こゝ婦人ふじん常つね

男子おとこ小せう依い賴らいをさるる所ところ以もつし

亞あ細こ互ご諸州しよしゆの惡あく弊へい成な長ちやうをさるる

所ところ以もつあり經けい典てん子曰しよこ女によを男おとこを重おも

せしむる所のら寸すん男おとこハ女によを教おし

をさるるすを然しからと歐おう州しゆ婦ふ

人の權けん勢せいを把こ持ちし男子おとこと

是^{これ}を^{りつ}一^{いつ}男子^{なんし}も^{まじ}恭敬^{きやうけい}せ^しむ

る^{まこと}誅^{しん}子女^{じふなん}子の^{めん}面目^{めん}を^ま辱^じす

男子^{なんし}の^し使役^{しやく}を^ま交^まけ^し男子^{なんし}は

奴^ど隸^{れい}たる^ま免^{めん}れ^しる^まは^ま金^{かね}を^ま女^{にょ}

子の^こ恥^ちと^し知^しる^ま一^{いつ}

第二章^{ちゆうしやう}

女子^{じゆし}も^ま男子^{なんし}と^ま同^{どう}權^{けん}也^{なり}故^{ゆゑ}に^ま

男子^{なんし}一^{いつ}國^{こく}の^{ちやう}長^{ちやう}を^ま成^なす^まる^ま手^てに^ま權^{けん}

有^あれハ女子^{むすめ}志^{こころ}馬^あ王^あ男子^{おとこ}一^{いつ}家^かの

主^あと成^なる^ふ事^{こと}権^{けん}有^ある^{こと}ハ女子^{むすめ}と

亦^{また}何^{なに}り^{こと}男子^{おとこ}身^み躰^た意^い思^し言^{げん}詞^ご

及^{およ}び物^ぶ件^{けん}自^じ由^ゆの権^{けん}何^{なに}れぞ

女子^{むすめ}志^{こころ}身^み躰^た言^{げん}思^し言^{げん}詞^ご及^{およ}び

物^ぶ件^{けん}自^じ由^ゆに権^{けん}何^{なに}り敢^あて男^{おとこ}

子^こ子^こ異^い形^{けい}ら^{こと}さる^{こと}考^{かう}や^{こと}さ^{こと}し^{こと}と^{こと}只^{ただ}

天^{てん}然^{ねん}之^の位^い次^じ男^{おとこ}子^こハ亞^あ子^こ有^あれば

宣教つ男子不對一礼儀を
欠き信託の徳を失ふ可
す

第三章

婚姻ハ男女各其父母を去
る身成合して一躰と形一
生を併きて一生を共り延
子孫の長及ふ人と相合

六

者考多り故不男女宜教其配
 偶を擇之々殊子女子の幸
 福ハ男子子關係多る者あるバ
 男子より其偶を擇む事

汗也官爵之為金縛之
 為淫欲之為平相結不婚姻
 所謂夫婦之情義と婚姻
 の旨趣を失ひ天理人道子灰

きハ 伍令其夫 巨業の富を擁よう

一 富貴榮華 成徳なりとく 子こををるる

是これを女子 幸福しあわせと云いふ可べか

ら守女子 夫の志行しぎょう 専せんらら才藝さいぎ云

何なにり相親あひまと お妻おつまと 人ひと小縁せうえん

悦よろこぶぶ一

第四章

夫婦ハ 吉凶禍福を共ともにに負ひん

富ふ榮えい辱じよくを同おなまらるる女め子こ一い身み

夫をとこの令れい聞ぶんハ婦ふの令れい聞ぶんと成なり

婦ふ法ほう醜しゆう名めいハ即すなはち夫をとこの醜しゆう名めいと

成なりりしもの形かたちハ女め子こ婦ふハ自みづか己この

為ための事ことをなす其その夫をとこの為ためめ多た

少すくなくの敬けい憚はんをなす身み子こ加くわへし少すくなく

ららす

第五ご章しやう

夫々家の主君婦ハ家の宰おのゝ
しゅ ご め の か の し ら い

補多リ此故子一家一族の人ほ
おほ おほ こ の い か の い か の ひと

皆婦の奉勅を伺ふて殊等みな
みな め の ほう し を う か ひ て こと な ら ず

軽重を考り故子婦かろ
かろ おも を か へ り ゆ こ め の い は ひ と そ ろ に

畧子其子弟を取扱ふ處りやく
りやく こ の こ の こ を と り あ は ら る ところ

可又僕婢ハ家族の一部か
か また わ ら は か の い ち ぶ 分 と も

云ハ是を使役い
い は こ を し え り せ ら る こと を い ふ

裕中々礼弓多ゆ
ゆ ちゆう ちゆう れ ゆ ま り た る こと を い ふ

女州學

ハ母くひ僕きん婢ひのきん助すけけを受うけくること事こと多おし

ときんれけんバほ恩おん惠けん成じやう施し一ま其その心しん報ほう

とその其その尊そん敬きやうをう得えること一ま必かならず

主しゆ人じんのい威いをあ振ありひ非ひ理りをあ以もつ

是これをあ唐たう使しをあ召めいすことノあ形かたのいれ

第だい六ろく章しやう

女に子しハあ抄しやう換かんをあ兼かふことをあ以もつこと立た居ゐ振あ

多ま好このひま等と總とてを温おん和わ子し一ま言こと

壹敬以爲禮

敵面爲相

一々之々一々之々女子

奉色子非

第七章

夫婦相立其父母兄弟

妹及以朋友を尊敬

婦人其友の朋友親族

を遠く相親

夫必らば是を快とせしむる
是は魂識の門を開き、
語を通じ、
是を快とせしむる

第八章

婦ハ其子入校の以て其子
自らの讀書算法及以裁縫
等の業を授くる

ハ其子入學の後教師の力を

費少く多くの學課を學び

得て故子女子ハ幼時諸藝

を學び其子女福祉施設を

習ふべし

第九章

婦ハ夫より其子に親近を

多し其幼少夫より正しく

らさるくはら寸じ状正一

い時其教悔を所る聖

賢を引証する共其子の為

伊等の利益を生せらる

先其身の初ひを廢る其子

我其悔せ其説く所る尋

常の候語子過(其)以(其)始

を(其)塊を取て稱中子置く

うめく おむく ちき ちあま 子成 こなり 感移 かんうつ

善 ぜん 親 おや 子 こ 抱 あか の志 こころ を を 成 なり

第十章

母 はは の 戲 あそび 渡 わた せ せ う う の の 語 ことば を を 幼 こども 子 こ

の の 標 ひし 準 じゆん と と 成 なり 年 ねん を を 母 はは に に 大 おほ

抵 たい 幼 こども 子 こ の の 視 し 聽 き 性 せい を を 移 うつ 一 いつ 慣 かん

習 しゆ 性 せい と と 好 この む む 者 もの 多 おほ ぬ ぬ 其 その 母 はは 生 な

貫 くわん 子 こ の の 為 ため 好 この 友 とも を を 擇 えら 一 いつ 好 この

隨まをししる摺すり齋さい鄙ひ野ののた約やくひ

子こ浸しん際さいせしむむおおららす

第十一章

婦ふ人じんのの夫ふうとと力ちからをを残のこせせ勉つとめめてて夫ふう

のの家け業ぎょうをを扶たす助たすをを了らすす夫ふう送とりりし

不ふ才さいをを一いつ家けのの經けい濟ぎをを處しよ

分ぶんをを能あたらしめめるる時ときをを婦ふ人じんのの擔たん當とう

當とうにに任にんをを負おかかすす人ひとのの任にん

家業

十七

或人の語子曰く人の家を破り

産成傾く者大抵其婦に家

の捕佐子非らば一戸位を以て

因りて益一一家の産業成

大者一族の光榮を増え其ハ

多ク其婦の器量子有り仮

令夫如何程の器量有りとも

其婦不才好言時ハ決て一家

福利を生むる事多し

なり

第十二章

だんとう子あよう

夫婦新子産業を立す

其婦尤経済の法を定らざる

也から夫経済の法は各面明らす

奢侈多しす節約す

及豊満を善とし故に

財を算一其四分の一を蓄

而治法とて彼令其家乃

は所一ヶ月凡八百圓貯

時を二百圓積蓄三百圓貯

以時五百圓を蓄ふぐ一貯

た非非常の備を為す財

只其身一生活窮乏の憂ひを

免るるに於らす其子孫の幸

福命大形也

第十三章

婦者假令其夫と産業を區

分し經濟を異し子孫の

善哉お計り心可夫婦如

留の事と彼我の事を云々

他人の如くある處に在す

第十四章

婦の願欲を以て所^{ところ}に必^{かなら}ず其^{その}家^か
 産の惣^{しん}富^ふ子^こ孫^{そん}を以て送^もじ
 夫^{つま}貧^{ひん}窮^{きゆう}して婦^ふ妾^{しやく}修^{しゆ}を
 好^{この}む時^{とき}を必^{かなら}ず其^{その}家^かに幸^{あき}
あたらがみ

福^{ふく}を致^{いた}す事^{こと}能^{あた}はば故^{ゆへ}に人^{ひと}の
 婦^ふを以^もて其^{その}子^こを調^{ちゆう}理^り
そのまがしんがん
 其^{その}身^み代^{しろ}の考^{かう}後^ごを考^{かう}
 慮^{りよ}して自^{みづか}ら是^{こゝ}を以^もて云^いふ

婦人
 九
 二

事ことを急いそぐららひひききららひひししとと急いそぐぐ

婦おとのの人ひと子こ嫁よめをを名なをを急いそぐぐ

園えん庭ていのの富とみ子こ嫁よめをを急いそぐぐ非ひはは

そま尤ゆ紹し飲いん食しをを美み子こ嫁よめをを

不ふ非ひららひひ又また爵しやく位ゐのの者ものをを官くわん給じゆの

多おほ中ちゆう子こ嫁よめをを急いそぐぐ非ひはは急いそぐぐ

夫おと尔る婦おとをを急いそぐぐにに左ひだりにに倭やまと令しむ官くわん給じゆ

多おほ急いそぐぐ爵しやく位ゐをを急いそぐぐ急いそぐぐ

如丸學

産豊饒うん ほう 昭あき 以もつ 共とも 子こ 其その 文ぶん

と 報くえん 雅ふん 成せい 共とも 子こ 安あん 樂らく 結くわつ

疇しゅう 也や 致いた 在あ 海うみ 一いつ 古こ 人にん 曰い 之の 以もつ 也や

夫ふ 婦ふ 茅ぼう 舍しや 子し 在あ る 歎くわん 情じやう 饒じやう

里り 有あ り 聖せい 誠じやう 不ふ 此この 言げん 忠ちゆう 味み 者しや 有あ る

を 覺かく 不ふ 能ぞく 吟いん 誦じゆ 一いつ 自こ 自ら

ら 其その 意い 成せい 頌じゆ 得とく 之の 也や

第十五章

女子は徳を勤儉なるに戒む

と云ふ然るを其家富に有

形の時、婦たる者、稍修飾

装飾を以て婦道を於て

妨げ、身持懶惰、室内

及び衣服の不潔、多量に婦

人女子の恥辱と云ふ處し

第十六章

婦ハ其夫の爲子衣服等具

飲食等諸物を爲子備

置ざるべからず又朋友賓客

の款待子供を可爲其後

と亦其の多ざるを子要

母の益の費を忠告法般乃

事を爲は子其時刻戒限

至其場を定めて其内法

具ぐの位次いちを敢とり清せい潔けつ美び

悉えいあらしむあるる又また其その夫と

忙ばい劇げつの事こと件けん何なに留とどめめハハ夙そく子し

起おきき宵よ子し寢ねぬぬ其その夫との為ため

非ひ常との勞らう勤きんをを得とるる事こと

事ことを操そう作さくししああるる事ことを勉べん

勵れいままぐぐ一一切けつくく歸き道どうをを盡じん

一一日いち夜や情じやうららむむ時とき名な必かなららら

は其^こあき^くし^んく^んの^ん極^く樂^{らく}

城^とも^や成^から^らし^むる^る

第十七章

婦^ふハ^つ孝^{けう}子^こ其^こ衣^い履^ふ及^お室^{むろ}改^か女^{にょ}

を^そ粧^ま飾^しし^て夫^{おと}の^め忠^{ちゆう}氣^き懺^{ぜん}戒^{かい}失^しハ

少^{せう}事^じ子^こ留^{りゆう}之^のを^をさ^さぎ^ぎし^し然^{しか}る^る

子^こ諂^{てん}媚^び辯^{べん}佞^{べい}夫^{おと}の^め玩^{わん}弄^{りゆう}物^{ぶつ}

と^とあ^ある^る又^{また}猗^いし^し玉^{たま}を^をさ^さぎ^ぎする^る之^の

第十八章

婦其夫之言戒夫之曰永

其志を保たんと欲せば必ら

ば姑の戒懐ふべからば常不

其心を寛厚も一居夫の好

をある所ハ是戒好しし夫の

物に所志又是を親に必ら

ば自己の好るを以て夫と

異論^{いろん}矣^い儀^ぎを^を之^{これ}に^に入^{いれ}る^す

第十九章^{ちゅうじゅうしやう}

婦^ふたる者^{もの}夫^{おとこ}子^こ過^{あやま}ち^ちあり^{あり}登^{のぼ}

以^も之^{これ}と^と違^{ちが}ひ^ひを^を責^せむ^むべ^べし^し可^か

又^{また}婦^ふの^の才^{さい}智^ち其^{その}夫^{おとこ}子^こ後^{のち}乃^{すなは}ち^ち

自^{みづか}ら^ら矜^{あは}色^れを^を希^{おぼ}む^む至^{いた}る^る夫^{おとこ}成^{なり}

難^{たが}悔^いを^を之^{これ}に^に入^{いれ}る^す又^{また}夫^{おとこ}の^の怒^{いか}を^を

發^はせ^せる^る時^{とき}に^に怒^{いか}を^を抗^かへ^へる^る夫^{おとこ}

女^に子^こ

を罵ののしりり言ことばををべべううらら寸すん徐じゆ子こ其その夫をを

諫いさめめめ自みづかののらら悔くわい恨ごんをを多た子こををるるををら

一ひとむむ登のぼ一ひと蓋おほ一ひと男おとこ子このの性せい

多た少せうのの基もと業わざありあり女に子こありあり

孫まご讓ゆづ屋や下したせせずず取とりり婦つま人ひとたるたる

者もの漫まん子こ其その夫ををを罵ののしりり至いた相あ抗ひを

以もつ時ときハハ生な極ごく必かな其その夫をのの言ことばをを激げき

一ひと生な急きふ之の戒けい交かう多た子こををるるををららし

第廿章

婦を名者ふ幸ありて其夫の

産業を失て官爵を失

ふ時子孫を以て其家を保其

優子存て憂苦の状愁満の

態を為すべし能く夫乃

少思成慰め免懇切に陪侍

を以て時を夫に補翼

能方子周り空言成強一貫

志成墜子為らず又生夫

酒多子淫り遊り高浪費我亦を

省可亦業を修め成り時を

婦其心を竭し生愛成極

め夫を我亦室此亦子

うめひ系飲食の亦口子佳

なるを思ふ一むべ一婦

斯くの女おんなを子こに道みちを成なすし夫うそ
 於おこ此こを改あらためざること是これ
 を婦あんなの過あやまちと云いふことは
 一ひとと婦あんなたること猶なほ其その夫うそを成なす

捨することはつれずこと夫うその約やくを改あらた
 むこと成なすこと已おのれことと為なし夫うそ
 の心こころを定たむこと成なすこと顔かほ色いろを
 柔なげこと言語ごんごを情こころにあはれしこと

女州 隆平

己生非を凍玉に

第廿一章

婦たる者其夫病するに

床に臥在時其日夜其側

を解れ在生枕あり在之或

ち醫藥を其供或は疾

痛或問ひ其背を拍ち胸を撫

む其獲慰あり其所

あつるべし 夫 疾 痛 の 時 生

婦 生 傷 子 在 り 生 家 切 成

鶏 せ ち 夫 の 為 ら 思 の 物

快 を 引 起 し 其 手 癒 乃

切 ち 奏 生 事 世 上 百 般 の

音 系 成 修 生 事 相 接

る

第廿二章

婦 女 有 時 じ 三 持 對 儀 也

酒 一 罇 を 磨 其 爲 爲

酒 嬉 を 爲 其 爲 嬉 け 送

然 然 子 賭 博 の 戲 其 爲 爲

べ っ ち 可 賭 博 人 の 詐 心 成 生

其 者 好 り 又 淫 書 を 積 む べ

ら ず 淫 書 人 の 心 目 成 乱

一 人 其 行 を 恠 つ 其 心 官 殺

新しん心ごん成しをよ後ごあぶしし新しん心ごん
 宗しゆんととくくのの年ねん目め成せい新しん心ごん
 くのの開くわい他た成せい進しんもも名な考こうあままま
 直ち母ぼ女にょ大だい學がく終しゆう

知ちのの種しゆななまま種しゆままらら馬ば柳りゆうのの枝えだイ
 ままのの種しゆおおままららままのの種しゆままららままのの種しゆ
 妻さい柳りゆうままらら母ぼ花はなのの出でのの種しゆ成せい尋じん
 福ふくてておおままらら人ひとのの種しゆままららままのの種しゆああままのの
 ななままをを人ひとにに生なまましてしてままららままのの種しゆ
 世よををままららままのの種しゆままららままのの種しゆと

よろしき舞ハゆらなま呈 桂割こも
 於系魚ー一されハかく弄筆
 由大忠代ハあつね女子らの系
 弄弄舞ハ戯蓮よのこぬ計
 里そハうま所ハふ来も〜と
 七那どのその詮河さばこれに

こり友お拈光華ぬーのそ紙ハあ
 久ながさ〜い〜きい〜をそ女大孝
 一〜一巻の書紙ハのー一〜と
 おぼや〜ま〜せんと巳の文書
 於三坊あ系をむ〜〜〜孝えんて
 カスリー女子の世書ハ〜〜〜

姓
名
官
職

西
京

大
坂

駿
州
靜
岡

加
州
金
澤

信
州
善
光
寺

同
松
本

村
上
勘
兵
衛

田
中
屋
治
兵
衛

敦
賀
屋
九
兵
衛

河
内
屋
勘
助

秋
田
屋
太
右
衛
門

浪
華
屋
市
藏

中
村
屋
喜
兵
衛

近
岡
屋
太
兵
衛

小
柝
屋
喜
太
郎

藤
松
屋
桂
十
郎

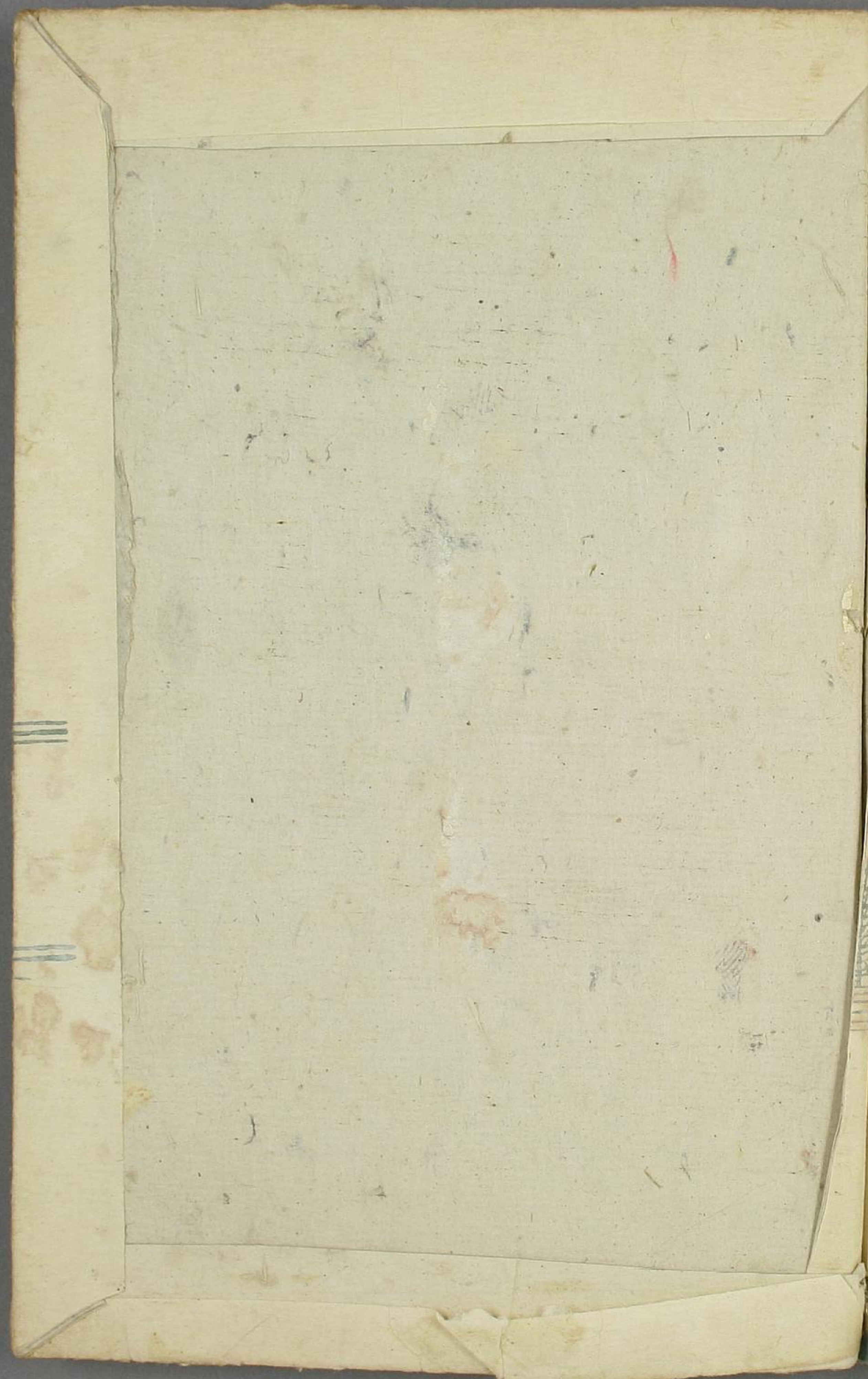
48-13785

東京 書林

和泉屋市兵衛板	和泉屋吉兵衛	藤岡屋慶次郎	山城屋政吉	和泉屋金右衛門	湏原屋伊八	椀屋喜兵衛	小林新兵衛	山城屋佐兵衛	湏原屋茂兵衛
---------	--------	--------	-------	---------	-------	-------	-------	--------	--------

010190528184

同	同	上州高崎	下総佐原	常州水戸	陸前仙臺	岩代福島	越後長岡	同 葛塚	中府八日町
高見屋甚左衛門	菊屋源作	正文堂利兵衛	湏原屋安次郎	管原屋安兵衛	近江屋三十郎	鳥屋十郎	上田屋治八	三條屋七十郎	藤屋傳右衛門



The right page contains a large rectangular frame with a blue border. Inside the frame, there are several lines of extremely faint, illegible text, possibly bleed-through from the reverse side of the page. The text is arranged in approximately six horizontal lines. In the bottom right corner of the page, there are handwritten numbers and a symbol:

22223
1
0-17

